

2024.4.27 | sat. - 5.26 | sun. 10:00 - 18:00

会場 Venue | 瑞雲庵 Zuiun-an 4.27 から 5.6 まで無休 以降 金~日曜日 開館(月~木 休み)  
京都市北区上賀茂南大路町 62-1

「伝統と革新」を象徴する野心的空間・瑞雲庵において、  
世代・表現領域の異なる6人の日仏アーティストが、アートをつうじてエコロジーを問う。

## Artists

ジャン＝ルイ・ボワシエ / Jean-Louis BOISSIER

フロリアン・ガデン / Florian GADENNE

クワクポリョウタ / Ryota KUWAKUBO

石橋友也 / Tomoya ISHIBASHI

入江早耶 / Saya IRIE

古市牧子 / Makiko FURUICHI

# 遍在、不死、 メタモルフォーゼ

*Omnipresence,  
immortality  
and  
metamorphosis*



入場料 Admission | 無料 Free

Open daily from 27 April to 6 May,  
thereafter, Open | Fri. to Sun. Closed | Mon. to Thu.



各種情報、Webサイトはこちら  
<https://artsensibilisation.com>

Curator

大久保美紀 / Miki OKUBO

主催 : art-sensibilisation

助成 : 公益財団法人西枝財団「瑞雲庵における若手創造者支援事業」/  
Young Curator Support Program by Nishieda Foundation

協力 : 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

西枝財団  
Nishieda Foundation



IAMAS

# 遍在、不死、メタモルフォーゼ

「わたしたち(あらゆる生きもの)は同じ一つの生であり続けている」

(エマヌエーレ・コッチャ)

この衝撃的なフレーズは、『植物の生の哲学』で知られるイタリア人哲学者エマヌエーレ・コッチャの言葉だ。人類の活動が地球全体へ深刻な影響を及ぼす「人新世」において、私たちはいかに人間中心主義を乗り越えられるのか。非人間存在を思いやり、地球環境に配慮するとはいかなることか。

「メタモルフォーゼ」(métamorphosés, 変身/変態)が可能にするのは「共感」だ。あらゆる生は「メタモルフォーゼ」でつながれる。すべての私たちは異種混濁であり、過去・未来と地球上全体に広がっている。「メタモルフォーゼ」はそれゆえ遍在であり不死である。

「伝統と革新」を象徴する野心的空間・瑞雲庵において、世代・表現領域の異なる6人の日仏アーティストが、アートをつうじてエコロジーを問う。



Jean-Louis Boissier « Crassula ubiquiste », Exposition Media Medium (2014)

Omnipresence,  
immortality  
and  
metamorphosis

“We (all livings) are living a single life, the same life” (E. Coccia).

This striking phrase is from the Italian philosopher Emanuele Coccia, known for his “The Life of Plants”(2016). In the “Anthropocene”, where human activities are having a serious impact on the entire planet, how can we possibly overcome anthropocentrism? What does it mean to be compassionate toward non-human beings and to care for the global environment? What “metamorphosis” makes possible is “empathy”. All life is connected through “metamorphosis”. We are all heterogeneous and sprawled across the globe in the past and future. Metamorphosis is therefore omnipresent and immortal. In the ambitious space of Zuiun-An, which symbolizes “tradition and innovation”, six French and Japanese artists from different generations and fields of expression will question ecology through art.

## Artists

ジャン＝ルイ・ボワシエ / Jean-Louis BOISSIER

1945年生まれ。メディアアーティスト、キュレーター、パリ第8大学名誉教授。1980年代より、CD-ROMを使用したインタラクティブ・インスタレーションを通じて、鑑賞者と場の変容の問題に着目。

主著に《La Relation comme forme: L'interactivité en art, nouvelle édition augmentée》(2004)、《L'Écran comme mobile》(2016)。

石橋友也 / Tomoya ISHIBASHI

1990年生まれ。早稲田大学大学院電気・情報生命専攻修了。金魚、漆、言語など自然と人為の境界に着目し、科学・テクノロジーの視点からそれらの性質、構造、歴史に迫る。第23回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞(2021)、WIRED CREATIVE HACK AWARDグランプリ(2019)、第25回岡本太郎現代芸術賞入選(2022)。個展に「コトバノキカイ」(TOKAS hongo, 東京)。

フロリアン・ガデン / Florian GADENNE

1987年生まれ。ナント＝サン・ナゼール高等美術学校修了(修士)。マイクロ・マクロの観点を行き来しながら、人間中心主義的なエコロジーを批判し、日常を見つめる詩的な視点を提唱する。その表現は絵画、彫刻、映像など多様な形態をとる。

PARIS ARTISTES入選(2015)、Art Award In the CUBE 2023入選(2023)や500m美術館賞グランプリ賞(2023)、第27回岡本太郎現代美術賞入選(2024)。

入江早耶 / Saya IRIE

1983年生まれ。広島市立大学大学院芸術学研究所博士前期課程修了。第6回shiseido art egg賞受賞(2012)。International Studio & Curatorial Program参加(2022、ニューヨーク、ポーラ美術振興財団助成)。個展に「デイリー・ミニュメント」(2023、国際芸術センター青森)、「純真遺跡～愛のラビリンス～」(2019、兵庫県立美術館)など。消しゴムでイメージを消して、でた消しカスを練り上げて彫像するという独特のアプローチを追究。

クワクボリョウタ / Ryota KUWAKUBO

1971年生まれ。情報科学芸術大学院大学教授。電子回路を素材とした「デバイス・アート」の代表作に《ビットマン》(1998)、《PLX》(2000)、《ニコダマ》(2010)などがある。

2010年(10番目の感傷(点・線・面))で第14回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞。以後、光と影による内的な体験を促すインスタレーションを制作。ソロ活動の他、パーフェクトロンとしての活動で『デザイン展』(2018)の展示構成などを手がける。

古市牧子 / Makiko FURUICHI

1987年生まれ。ナント＝サン・ナゼール高等美術学校修了(修士)。ナント市賞受賞(2018)。

「ブドウの時代」(AXENÉO7, カナダ, 2019)、「ドリーム・ジャングル」(Hotel Amiral, 宿泊室全体をインスタレーション、ナント)、「KAKI Kukeko」(FRAC, カルクフー)、「手のひら泥棒」(WISH LESS gallery, 東京)など。洗練された独特な水彩画のテクニックと色彩による表現を追究。

会期: 2024. 4. 27 Sat. — 5. 26 Sun. 10:00-18:00 ※4.27から5.6まで無休(以降金～日開館(月～木休み))

Open daily from 27 April to 6 May, thereafter Open | Fri. to Sun. Closed | Mon. to Thu.

会場: 瑞雲庵 入場料: 無料 Venue: Zuiun-an Admission: Free

キュレーター 大久保美紀 | Curator Miki OKUBO

1984年生まれ。情報科学芸術大学院大学准教授。芸術博士(Doctorat en Esthétique, Science et Technologie des Arts, パリ第8大学)、専門は美学・芸術学。共感論・新しいエコロジーの美学を研究。2017年よりキュレーターとして医療とエコロジーの領域における芸術的感化を模索する展覧会を多数企画。主著は《Exposition de soi à l'époque mobile/liquide》(2017)。

展覧会、展示作品等に関するお問い合わせはこちら [mimi.okb@gmail.com](mailto:mimi.okb@gmail.com)

会場情報 | Access

瑞雲庵 Zuiun-an

〒603-8074 京都市北区上賀茂南大路町 62-1

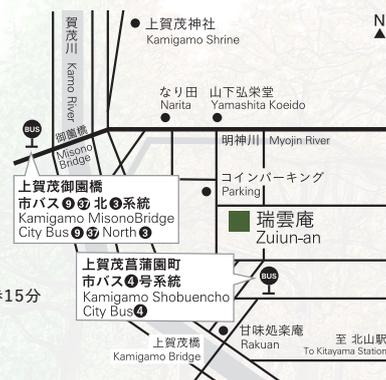
[info@n-foundation.or.jp](mailto:info@n-foundation.or.jp)

京都駅から

市バス9号/37号/北3号系統「上賀茂御園橋」下車徒歩15分  
京都市営地下鉄「北山駅」下車タクシー、又は徒歩20分

四条河原町/出町柳から

市バス4号系統「上賀茂菖蒲園町」下車徒歩5分



各種情報、Web サイトはこちら  
<https://artsensibilisation.com>

開幕後随時 Web サイトにて展作家インタビュー公開

関連イベント 2024.4.27 14:00-18:00 アーティストトーク・オープニングレセプション(一部作家在廊)